

## 日本の前衛音楽の先駆者 諸井誠 (1930～2013)

### 現代音楽作曲家としての諸井誠

★東京音楽学校本科（現・東京芸術大学音楽学部）作曲科を1952年に首席で卒業。作曲において海外の音楽賞で入選や入賞を果たす。またドイツのケルンで、電子音楽を学ぶ。

- ・日本に初めて本格的に「電子音楽」を紹介。NHK電子音楽スタジオにて 黛 敏郎と共に『7のヴァリエーション』（1956）を作曲。
- ・竹保流（ちくほりゅう）尺八の宗家である酒井家の協力を得て、「竹籟五章（ちくらいごしょう）」（1964）を作曲。

→竹保流宗家三代目の酒井松道は、この曲の演奏などで2008年の「文化庁芸術祭大賞」と「芸術選奨文部科学大臣賞」を受賞。

### 20世紀音楽研究所（1957～1965）

★現代音楽の音楽祭を長野県軽井沢町を中心に大阪、東京などで6回開催した。

- ・創立時のメンバー（7人）  
作曲家/諸井誠、黛敏郎、入野義朗、柴田南雄  
演奏家/森正、岩淵龍太郎  
音楽評論家/吉田秀和
- ・創立後に参加したメンバー  
作曲家/武満徹、一柳慧、松下真一  
演奏家/小林仁、岩城宏之

→武満徹が1967年に作曲した、琵琶、尺八とオーケストラのための音楽作品『ノヴェンバー・ステップス』は世界で高く評価される。

### さいたま芸術劇場館長（1995～2004）

初代芸術監督も兼任し、さいたま芸術劇場を世界的な劇場へと導く。

★ピアニスト100（1997年～2007年）  
音楽監督に中村紘子（ひろこ）氏を迎える。約10年をかけて100人のピアニストを国際的な視点によって選び、毎年演奏会を開催し、好評を博した。

★彩の国シェイクスピア・シリーズ（1998年～2022年）  
芸術監督に蜷川（にながわ）幸雄氏を迎える。シェイクスピア全戯曲37作品を上演する企画。蜷川氏の他界後は、吉田鋼太郎氏が芸術監督を引き継ぐ。

→諸井誠が芸術総監督を務めた2003年の「ペリクリーズ」は、英国ナショナルシアター正式招待作品であり、第3回朝日舞台芸術賞グランプリと第11回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞。

### 音楽評論や本庄との関わり

～音楽は理論とともに鳴り響く～

★書籍・テレビ・ラジオを通して、クラシック音楽・現代音楽の評論活動を積極的に行う。

★音楽教育活動を以下の大学等で行う。

- ・エリザベト音楽大学・桐朋学園・東京芸術大学・お茶の水女子大学・大阪教育大学・大阪芸術大学・神戸女学院大学・明治学院大学

★尺八・箏など日本の楽器との関係

- ・『ロベルトの日曜日』音楽之友社 1972年では、尺八の音楽について小説形式で記述。
- ・箏曲（そうきょく）演奏家の下野戸亜弓さん（本庄高校卒・東京芸大卒）は本庄市出身。諸井誠さんは2011年にその下野戸亜弓さんのために《秋の琴～もうひとつのレクイエム～》を作曲。

※諸井誠さんには無国籍的なものへのあこがれから、イタリア語めかした変名マコトニオ・モンロイ名義による著作があったり、ラジオのクラシック音楽番組でダジャレを飛ばし続けるなど、独特のユーモアがあり、そのことも音楽ファンを喜ばせ続けることにつながった。